

調布市景観形成ガイドライン

(緑の景観づくり国分寺崖線編)

はじめに

調布市の景観は、東西方向に連続する多摩川と野川、国分寺崖線と布田崖線が生み出す、起伏に富んだ地形や高低差、崖地に多く残る緑地帯などが骨格となっています。

市では、こうした調布らしい景観を守り育てため、調布市景観計画を定め、市民、事業者及び市が一体となって良好な景観の形成に積極的に取り組んでいます。

本ガイドラインは、主に国分寺崖線景観形成重点地区における開発事業*やその他の建築物の新築等を計画する際に、地形や既存の植生を尊重した緑の景観づくりへの配慮事項をとりまとめ、具体的な緑の配置方法や樹種選定の手引きとして活用していただくために作成したものです。

※調布市ほっとするふるさとをはぐくむ街づくり条例（平成16年条例第18号）に基づくもの

建築物と地形の位置関係

国分寺崖線は、武蔵野の樹林地であるとともに、雨水の涵養や豊かな景観の特性を有しており、その地形との位置関係のイメージを下図に示します。

緑の景観づくり、国分寺崖線に配慮すべき事項を以降のページにとりまとめます。



緑の景観づくりの配慮事項

1. 斜面の使いかた別の配慮事項



崖線上部

- 斜面側に緑を配置し、崖線下部からの眺めを保全
- 道路から見える位置に緑を増やす
- 日陰や乾燥に強い樹種を選ぶ

崖線中腹

- 斜面側に緑を配置し、崖線下部からの眺めを保全
- 斜面に設ける擁壁は、圧迫感を低減するよう工夫

崖線下部

- 道路側に緑を配置し、道路からの眺めを保全
- 日当たりや湿気に強い樹種を選ぶ

1 斜面側に緑を配置し、崖線の眺めを保全する

- ・崖線下部から見上げた時、崖線の樹林と連続して見えるよう、斜面側（南側）に植栽を配置する
 - －崖線下部から見上げた時に見える位置に、中低木を配置し、崖線の緑を補完する
- ・建築物を台地側に配置し、斜面側に植栽スペースを確保する
 - －崖線上部では、北側に接道している場合は、道路側に建築物と駐車場を確保し、主庭を設ける
 - －崖線中腹・下部では、南側に接道している場合は、道路側に駐車場と植栽スペースを設ける
 - －斜面に対して道路が直交する場合は、配置にかかわらず駐車場や玄関周りに緑を取り入れるよう工夫する
 - －土地を造成して建築物を配置する場合は、壁面の緑化や擁壁を活用した駐車場をしつらえる
- ・高さや色合いの異なる複数の樹種を不規則に配置し、自然の植生が感じられるようにする
 - －敷地に十分な余裕がない場合は、メインとなる中低木を 1,2 本配置し、あわせて地被類や草花を設けて立体感や奥行きをつくる
 - －樹冠が大きくなりすぎない樹種を選ぶか、こまめに剪定して樹形の大きさを抑える

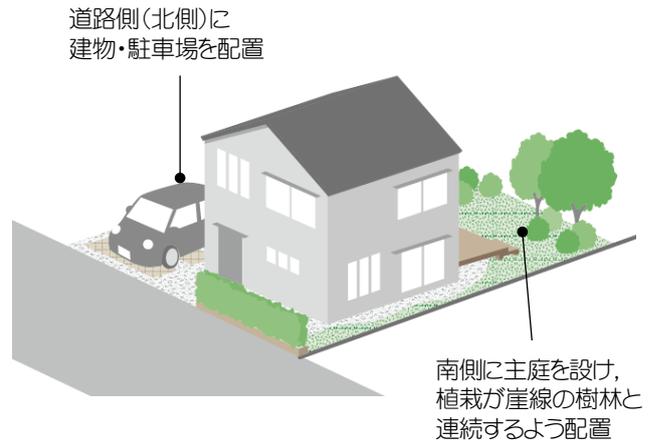
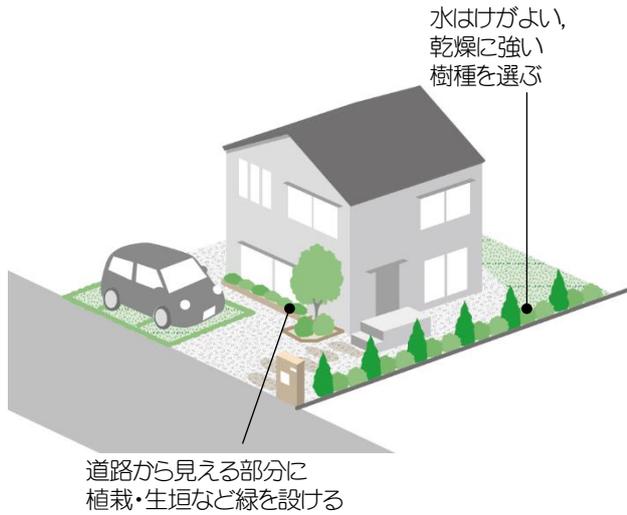
2 道路から見える位置に緑を増やす

- ・道路から見える部分や接道部、隣地との境界部は、塀などで閉鎖的にせず、生垣などで緑を設ける
 - －敷地の境界部は、生垣や、透過性のあるフェンスにつる性植物を設ける
 - －駐車場や駐輪場は、目隠しを兼ねて接道部に中低木や生垣を設ける
 - －葉が落ちにくい、樹形が変わりにくいなど手入れのしやすい樹種や、花や実で季節の変化が楽しめる樹種を選ぶ
- ・道路から玄関までのアプローチ、庭などは舗装で固めず、地表にも緑を設ける
 - －アプローチや駐車場の舗装、タイルの目地には、芝生や地被類を設ける
 - －小さな空きスペースや、フェンスを後退させた部分に低木や草花で花壇を設ける

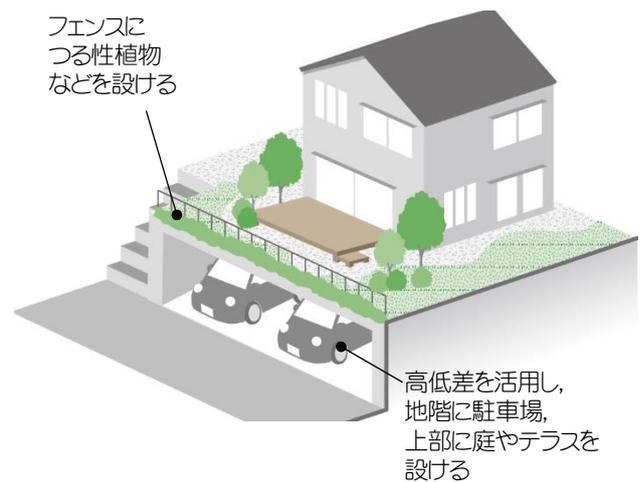
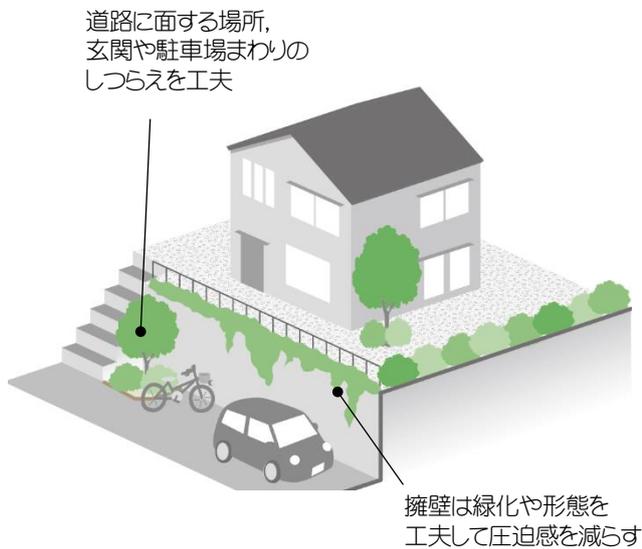
3 建築物の高さは崖線の緑を超えないよう工夫する

- ・崖線の緑や周辺の建築物との調和を図り、建築物の高さは崖線下部から見た時に樹木の最高高さを超えないようにする
 - －建築物や盛土の高さを調整し、崖線の緑の連続性を妨げない

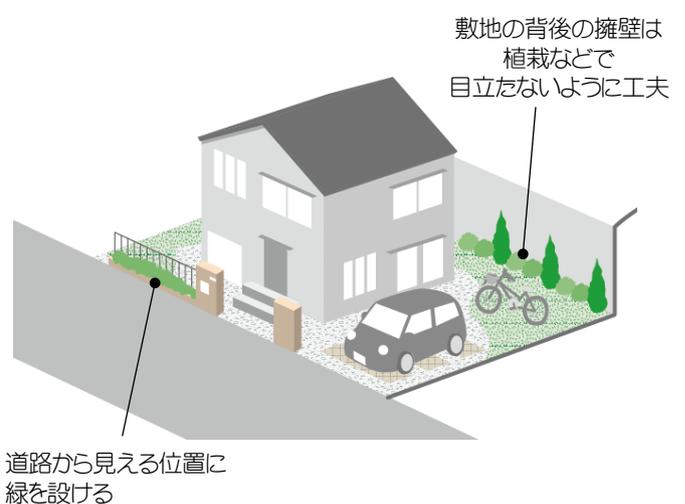
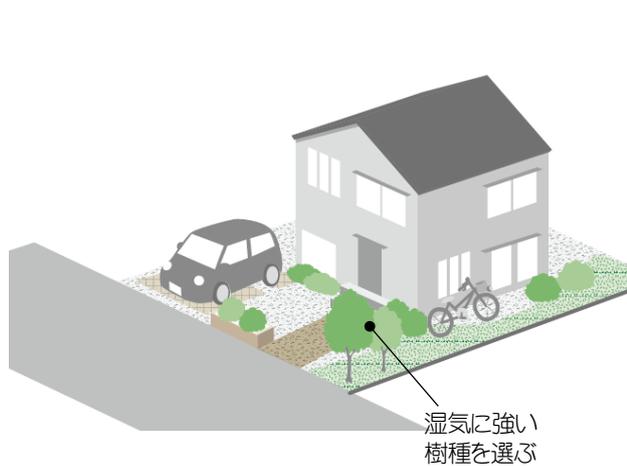
崖線上部



崖線中腹



崖線下部



2. 共通の配慮事項

敷地内や外構の緑化にあたって、共通の配慮事項を示しています。斜面の使いかた別の配慮事項とあわせて参照してください。

擁壁

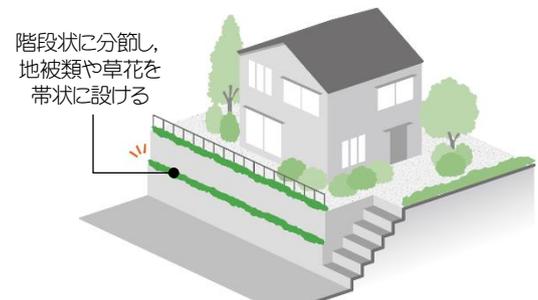
1 道路側に設ける場合は擁壁を緑化する

- ・緑化ブロック等を用いて低木や草花を植える
 - －空隙に草花を植えることのできる緑化ブロックや緑化ウォールを活用する
- ・擁壁をスリットや階段状に分節し、地被類を施す
 - －擁壁に一定間隔のスリット等を設け、地被類を帯状に施す



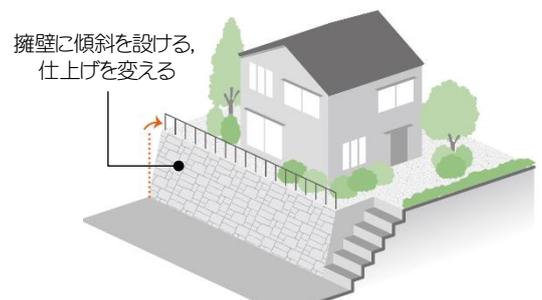
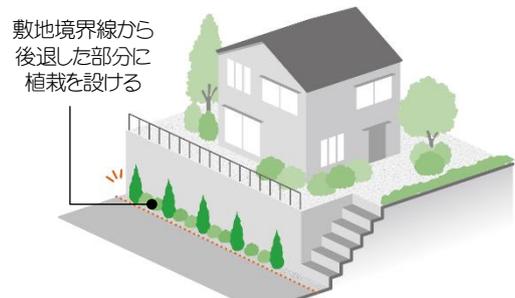
2 擁壁を後退させ、低木や植栽帯を設ける

- ・擁壁を敷地境界線から後退させ、後退部分に低木や植栽帯を設ける
 - －枝葉や根が広がらない、コンパクトな樹種を選ぶ
 - －逆T型擁壁などを活用し、後退部分を確保する
 - －植栽帯を設け、擁壁の水抜き穴からの水受けの役割を果たす



3 擁壁の形態を工夫し、圧迫感を軽減する

- ・擁壁そのものの形状に緩い傾斜を設ける、階段状に分節するなど、長大な壁面にならないようにする
 - －擁壁を垂直に立ち上げず、壁面に傾斜をつける
 - －頂部まで一面の壁面とせず、複数の段に分けたデザインとする
- ・化粧型枠を用いた仕上げ、壁面の素材を変えるなど、無骨な印象にならないよう視覚的な工夫を施す
 - －コンクリートを打設する型枠に化粧型枠を用いて、スリットや自然素材の模様を施す
 - －擁壁の壁面に石材やレンガ調など自然素材のタイルを貼り付ける



4 壁面を緑で覆う

- ・壁面をつる性植物等で覆い、擁壁を目立たせない
 - －壁面の日当たりや水はけを考慮し、適切な方法や樹種、植栽間隔を選ぶ
 - －登はん型の場合、根の張るスペースを確保し、樹種にあわせてワイヤー等の資材を設けて登はんを補助する
 - －下垂型の場合、擁壁上部のプランタ、植栽ます等は適切な土壌厚、給排水を確保する



①～④で活用できる樹種

- 〔草花・低木〕 シャリンバイ、シモツケ、アベリアなど
- 〔地被類〕 ハイビヤクシン、マツバギクなど
- 〔つる性植物（登はん型）〕 カロライナジャスミン、ナツツタなど
- 〔つる性植物（下垂型）〕 ヘデラ、ツルニチニチソウなど

駐車場

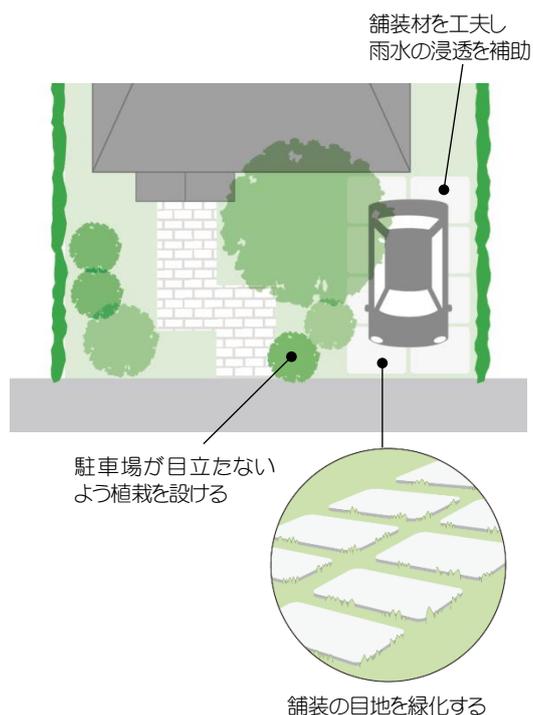
1 駐車場内を緑化する

- ・外周や道路沿いに低木や生垣を設け、駐車場を目立たないようにする
 - － 駐車場や駐輪場が道路から目立たないように、道路からの目隠しとなる低木や生垣を設ける
 - － 落葉が少ない、生長が遅いなど手入れのしやすい樹種を選ぶ
- ・駐車スペースの地表を緑化する
 - － 駐車場の妨げにならないよう配慮し、ブロックやタイルの舗装材を組合せ、目地を地被類で緑化する
- ・緑化が難しい場合は、舗装材を工夫するなど、崖線の土壌に雨水がしみ込むよう配慮する
 - － 駐車スペースには透水性、吸水性の高い舗装材を用いて、雨水の地中への浸透を助ける

〔木陰を作る樹木〕 サルスベリ、カリン、ヤマボウシなど

〔地被類〕 ヤブラン、タマリユウ、コグマザサなど

〔生垣〕 カナメモチ、イヌツゲ、ウバメガシ、トキワマンサクなど



宅地開発

1 区域内の未利用地を活用する

- ・区域内の不整形な土地を活用し、地域の公共空間として利用する
 - － 緑地や小広場、公園として整備し、地域住民の憩いの場、交流の場として役立てる
- ・公園や緑地を作ることによって木々や地面を通して水を蓄え、下水等流れ込む水の量を減らす
 - － 雨水を地下に浸透させ、河川や下水道管への流出を抑制する
 - － 浸透ますや浸透トレンチ等の施設を設置し、雨水を地面にしみ込ませる

〔雨水浸透ます〕 ますの底面及び側面を砕石で覆い、雨どい等で集まった雨水を流し込み地中に浸透させる



緑の景観づくりにあたって

- 崖線など、まとまった樹林地が残る地域では、新緑や紅葉といった季節の移り変わりも緑の魅力のひとつです。
- 落ち葉や街並みの中の樹木、地域のシンボルとなる公園の管理や手入れは、地域の皆さんで協力して取り組むことも景観づくりのひとつです。
- 開発により雑木林が宅地化されることで土や緑が少なくなり、行き場を失った雨水は地面にしみ込まずに川や下水道に一気に流れ込み、その水が溢れて水害を起こします。
- 支援制度（8ページ参照）なども活用し、地域の皆さんで協力して景観を育んでいきましょう。

3. 樹種選定の基本事項

調布市の植生

調布市は、首都近郊にありながら豊かな自然環境が保たれており、緑化指導や公園整備などにより木々や緑が増加しています。特に、国分寺崖線に代表される緑の連なりは、市街地の緑の背景となるなど市内の特徴的な景観を形成しています。しかし、昨今の建築・土木技術の高度化に伴い、崖線斜面地の開発が進み、調布市の自然植生であるシラカシなどの常緑広葉樹、ケヤキ、ムクノキなどの落葉広葉樹、コナラ、モウソウチクなどが減る中、新たに植える樹々で調布らしい緑の景観をつくっていくことが求められています。

市内の植生の例

自然植生 本来その土地の環境下で自然に生息していた植生

常緑樹 シラカシ、アラカシなど 落葉樹 ケヤキ、ムクノキなど

代償植生 植林や里山など、人間活動の影響によって土地本来の植生に代わって作られた植生

常緑樹 スギ、モウソウチクなど 落葉樹 イチョウ、アキニレ、カシワ、サトザクラなど

常緑広葉樹（シラカシ）



落葉広葉樹（ケヤキ）



落葉広葉樹（コナラ）

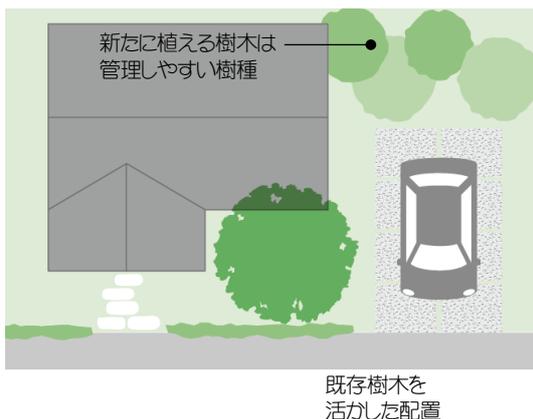


配慮事項

1 地域固有・在来の樹種を取り入れる

- ・崖線に自然分布し、周辺の地質や植生、景観に合った在来種を選ぶ
- ・手入れや管理がしやすい樹種を選ぶ
 - －生長が比較的遅い、剪定の回数が少ないなど
- ・敷地に元からある樹木はできるだけ活用する
 - －敷地内で移植する、既存樹木を活かした計画など

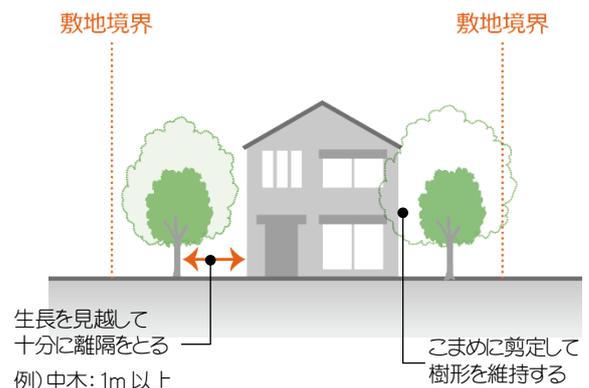
〔崖線の在来種〕 シラカシ、ケヤキ、イロハモミジなど
〔手入れがしやすい〕 モチノキ、ヒサカキ、ソヨゴなど



2 生長後の樹形や根を想定した位置に植える

- ・樹木が生長する大きさを想定し、建築物・工作物との離隔や根の伸びる余地を残して配置する
 - －10年後の生長する大きさを想定
- ・敷地に十分な余裕がない場合は、大きくなりすぎない中低木を選ぶか、こまめに剪定して樹形を抑える

〔中低木〕 シャクナゲ、クチナシ、オオデマリなど
〔生長が遅い〕 モッコク、ハナミズキなど



3 [崖線上部] 乾燥に強い樹種を選ぶ

- ・崖線上部（台地）は水はけのよい地層のため、乾燥などの外的影響に強い樹種を選んで植える
－乾燥に強く、水やりが少ない樹種を選ぶ

〔乾燥に強い樹種〕アカマツ、ウバメガシ、ヤマモモ、カリンなど



カリン



ヤマモモ

4 [崖線下部] 湿気に強い樹種を選ぶ

- ・崖線下部（低地）は水をためる地層で土地が湿潤なため、湿気に強い種類を選ぶ
－樹木どうしの密度が高くなり、土壌の栄養が不足しないよう、適切な間隔を取って植える

〔湿気に強い樹種〕イロハモミジ、シデコブシ、ハナミズキなど



イロハモミジ



ハナミズキ

5 [崖線上部] 日陰に強い樹種を選ぶ

- ・斜面側の樹木の陰になり日当たりが十分でないため、日陰に耐える樹種を選ぶ
－日当たりが十分でない場所では、日陰に強く生長した樹木を植える
- ・常緑樹・落葉樹をバランスよく配置し、落葉や日当たりによって表土を保全・育成する
－適度な日当たりや、落葉が朽ちることで土壌を育む
－落葉樹ばかりでは冬季に葉が少なく寂しい印象になるため、常緑樹や針葉樹を混ぜて配置する

〔日陰に強い樹種〕イヌツゲ、イヌマキ、モチノキ、サカキ、イロハモミジ、フィリアオキ、アジサイなど



アジサイ

イヌツゲ



6 [崖線下部] 日当たりに強い樹種を選ぶ

- ・崖線の樹木に日当たり日照りに強い樹種を選び、立ち枯れを防ぐ
－斜面側（南側）は日当たりがよいため、日照りや暑さに強い樹種を選ぶ

〔日照りに強い樹種〕ヤマモモ、ウバメガシ、サクラ、シャリンバイ、シモツケなど



シャリンバイ



シモツケ

緑化に関する支援制度

生け垣設置費用の助成

▶ 問合せ先: 環境部 緑と公園課

緑豊かな街並みの形成や騒音の吸収、通風の確保を目的に、建築物の新築等にあわせて生け垣を設置しブロック塀などを撤去する場合の経費を一部助成しています。

花いっぱい運動

▶ 問合せ先: 環境部 緑と公園課

花・苗を植え、花を咲かせて地域の緑を豊かにすることを目的に、緑化活動を進める市内の地域グループに対して、活動に要する経費を一部助成しています。

ふれあいのみちづくり事業

▶ 問合せ先: 都市整備部 道路管理課

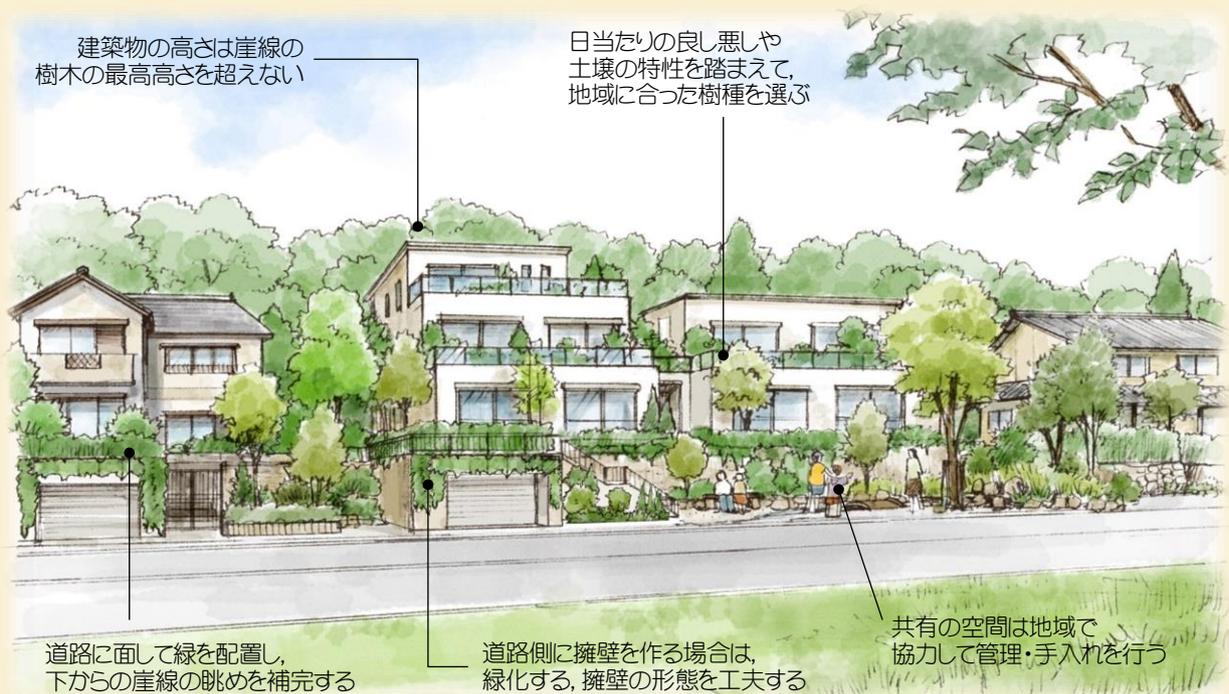
地域の環境美化のため、市道、水路など公共空間の清掃や維持管理を行う活動に対して、用具の貸し出しなどの支援を行っています。

保全地区・保存樹木・保存生垣

▶ 問合せ先: 環境部 緑と公園課

市内の緑を豊かにし、貴重な樹林や大木を後世に残すことを目的に、面積や規模など一定の基準を満たす樹林・樹木・生垣を保全地区・保存樹木・保存生垣として指定する制度です。管理や剪定のための経費を一部助成しています。

斜面地の緑化のイメージ



調布市景観計画 国分寺崖線景観形成重点地区の景観形成のイメージ

調布市景観形成ガイドライン（緑の景観づくり国分寺崖線編）〔第2版〕

発行日：令和2年3月 発行：調布市

編集：都市整備部 都市計画課

〒182-8511 東京都調布市小島町 2-35-1 TEL：042-481-7746

登録番号
(刊行物番号)

2019-196